

2 施術前聞き取り用 カウンセリングシート

資料5

健康被害を防止するためにはお客様への事前聞き取りが重要なポイントになります。本カウンセリングシートは、お客様に現在の体調、体質、アレルギー、既往症、エステティックでの健康被害の経験等を漏れなく聞き取れるようになっています。

エステティック施術の安全性向上のためのモデルカウンセリングシート

Q1 あなたの体調などについてお伺いします。

- 皮膚状態 ●体調 ●身体疲労 ●ストレス

Q2 アレルギーについてお伺いします。

- アレルギーの有無 ●花粉症 ●喘息 ●アトピー性皮膚炎 ●蕁麻疹 ●化粧品 ●金属 ●光線過敏 ●食物 ●薬物 ●ラテックス

Q3 慢性疾患についてお伺いします。差し支えない範囲で会頭をお願いします。

- 慢性疾患の有無 ●糖尿病 ●高血圧 ●心臓病 ●悪性腫瘍 ●リンパ浮腫 ●膠原病 ●更年期障害 ●精神疾患

Q4 過去エステティックの施術で健康被害を受けたことがありますか？

- 健康被害の有無 ●かぶれ ●やけど ●擦過傷・打撲傷

エステティック施術の安全性向上のためのモデルカウンセリングシート

Q1 あなたの体調などについてお伺いします。

●あなたの皮膚状態についてあてはまるものをすべてに○をつけてください。

1) 発疹が出やすい	4) 皮膚がかゆい	7) 皮膚がほてりやすい
2) おできや吹き出物・ニキビが出やすい	5) 冬にはあかざれがある	8) 季節の変わり目に不調になる
3) 皮膚がかさかさしやすい	6) 皮膚が冷えやすい	

●あなたの体調についてあてはまる項目すべてに○をつけてください。

* 良好 普通 不調

冷気 肩こり 肩痛 便秘 腰痛 頭痛 ほてり
更年期 腹痛 不眠 貧血 高血圧 息切れ
低血圧 めまい その他

* 身体疲労 ほとんどない 軽度 重度

* ストレス ほとんどない 軽度 重度

Q2 アレルギーについてお伺いします。

●アレルギーの有無 ーなしーあり⇒※下記のあてはまる項目全てに○をしてください。

いつ頃から	症状(あてはまるものをすべてに○)	現在の状況(あてはまるものをすべてに○)	原因物質
花粉症	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	スギ・ヒメキ・ブタクサ その他
喘息	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	ハウスダスト・ダニ・カビ・ペット その他
アトピー性皮膚炎	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	
蕁麻疹	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	
化粧品	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	香料・色素・パラベン PPDA その他
金属	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	ニッケル・コバルト・タタム その他
光線過敏	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	外用性(香料、湿布薬等) 内服性
食物	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	卵・牛乳・大豆・小麦 甲殻類 その他
薬物	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	湿布薬・湿布薬・抗生物質 鎮痛解熱剤 その他
ラテックス	年 前 発疹・発赤・赤ぶくれ・かゆみ・せき 鼻水・しゅみ・痛み・その他	投薬 完治 通院 入院	ゴム手袋 その他

※化粧品の種類やメーカーが分からなければ記入ください。種 類

Q3 慢性疾患についてお伺いします。差し支えない範囲で回答をお願いします。

●疾患の有無 ーなしーあり⇒※下記のあてはまる項目全てに○をしてください。

いつ頃から	症状の自己評価	現在の状況	疾患による日常生活への影響
糖尿病	年 前 重症 中等症 軽症	投薬 完治 通院 入院	大 中 小 ※内容
高血圧	年 前 重症 中等症 軽症	投薬 完治 通院 入院	大 中 小 ※内容
心臓病	年 前 重症 中等症 軽症	投薬 完治 通院 入院	大 中 小 ※内容
悪性腫瘍	年 前 重症 中等症 軽症	投薬 完治 通院 入院	大 中 小 ※内容
リンパ浮腫	年 前 重症 中等症 軽症	投薬 完治 通院 入院	大 中 小 ※内容
膠原病	年 前 重症 中等症 軽症	投薬 完治 通院 入院	大 中 小 ※内容
更年期障害	年 前 重症 中等症 軽症	投薬 完治 通院 入院	大 中 小 ※内容
精神疾患	年 前 重症 中等症 軽症	投薬 完治 通院 入院	大 中 小 ※内容

Q4 過去エステティックの施術で健康被害を受けたことがありますか？

●健康被害の有無 ーなしーあり⇒※下記のあてはまる項目全てに○をしてください。

いつ頃	被害の程度	機器使用の有無	原因となった施術
かぶれ	年 前 治療3週間未満 治療3週間～1ヶ月 治療1ヶ月以上 治療せず	治療1～2週間 治療1ヶ月以上	有 無 フェイシャル 脱毛 複身 その他
やけど	年 前 治療3週間未満 治療3週間～1ヶ月 治療1ヶ月以上 治療せず	治療1～2週間 治療1ヶ月以上	有 無 フェイシャル 脱毛 複身 その他
擦過傷・打撲傷等	年 前 治療3週間未満 治療3週間～1ヶ月 治療1ヶ月以上 治療せず	治療1～2週間 治療1ヶ月以上	有 無 フェイシャル 脱毛 複身 その他

エステティック施術の安全性向上のためのモデルカウンセリングシート注意事項

Q1 体調

疲労やストレスが原因で体調が下降気味な時は、免疫力が低下していることが多く、普段は問題のない細菌やウイルスに感染する可能性が高くなります。施術前にお客様の体調を確認して疲労やストレスがあるときは無理な施術は行わないようにしましょう。

Q2 アレルギー

アレルギーを持つお客様への共通の注意事項として、お客様がひりひり感、痛み、痒みなど違和感を訴えた時にはすぐに施術を中止し、冷やしましょう。

花粉症

花粉症の方は、鼻のかみ過ぎ、眼のこすり過ぎ、マスクなどの摩擦行為により皮膚バリア機能低下状態にあるので、花粉が皮膚に接触して皮膚炎を起こしてしまうことがあり、花粉症皮膚炎と診断されます。化粧のせい…かと思って化粧をやめてしまうと、むしろ悪化してしまう方も多いので化粧かぶれなのか花粉症によるかぶれなのかを、見極める必要があります。難しい場合は、是非、専門医受診を勧めてあげるようにしましょう。施術は、赤みやかさつきが酷い場合、通常の施術では刺激が強すぎかぶれが助長してしまいますこともあるので、気持ちのいいことだけをしてあげましょう。「リラクゼーションを心がける」という方が良いように思えます。

喘息

喘息は、アレルゲンが特定されているものとされていないものに分けられ、アレルゲンが特定されている場合はその原因物質との接触しないように配慮しましょう。

治療していて問題がない人は通常の施術で大丈夫ですが、例えば、症状が出ていなくても、その姿勢や圧力によっては、思いがけない喘息発作を誘発することもあるので、特に仰臥位(仰向けに寝る)は、苦しんでしまうことがあります。お客様から楽な姿勢を聞いて、発作の誘発がないようよく話し合い、姿勢に気を付けてあげる必要があります。

アトピー性皮膚炎

ご自身に花粉症、喘息、蕁麻疹などがあり、あるいは血縁のある家族にもあり、冬の乾燥に弱いような方は、アトピー性皮膚炎と診断されていなくても、アトピー性皮膚炎の発症リスクが高いとさせていただく必要がありますから、きちんと問診をとることがとても大切です。冬場の口唇のかさつきが酷い方、目尻、あるいは、耳が切れやすい方、手指先にはあかぎれを起こすような方たちは、アトピー性皮膚炎の部分症状のことがあります。ご本人が、自分だけはアトピー性皮膚炎ではないと思っているケースもときどきあるので、きちんと問診を注意深く行って、その人の皮膚のリスク度合いを見極めて施術をする必要があります。

当然、冬場は皮膚バリア機能が落ちている状態なので、さらに擦る、マッサージということで、使う洗浄製品や化粧品類による刺激を誘導しやすくなってしまいます。特別アトピー性皮膚炎だから香料が使えないアレルギー性のかぶれが起こりやすいというわけでは決してありませんけれども、過敏に感じる状況があります。敏感肌という本人の認識がない人ほどクレームになってしまうようなことがあるかもしれないので、注意深く、それはしっかり聞きながら施術もしながら皮膚状況を観察しながら、無理のない施術をするということが良いと思います。

症状が落ち着いていれば皮膚に対する刺激が弱いものを選択して、お互いによく話をしながら、施術内容を決めていきましょう。疾患治療中の方、生理前後、あるいは産後の具合、更年期の具合、ハイリスクの人には、何を求めている、何を提供してあげればいいのかということを考える必要があります。

蕁麻疹

蕁麻疹というのは、虫に刺されたように赤く膨れて24時間以内に消えてしまうものです。2か月、3か月とかゆい発疹が出ては消え、出ては消えを繰り返しているのは慢性蕁麻疹です。原因は、様々で、温熱蕁麻疹、寒冷蕁麻疹、物理的な擦る事によって起こる人工蕁麻疹などがあります。それから発汗による蕁麻疹は、普通の蕁麻疹より毛穴に一致した小さいブツブツした小紅斑がでてきます。また、もちろん薬剤、塗り薬で接触蕁麻疹が起こることもあります。蕁麻疹の方は、治療しているかどうかがとても大事で、抗ヒスタミン薬を飲んで安定している方は、通常の施術も問題ないケースが多いでしょう。一方、温熱刺激、摩擦刺激で誘発される可能性があることをあらかじめお伝えをして、反応が出るようだったら早めにやめるという対策を施術前にお互いに理解し合っては始めるというのが良いと思います。治療していない人はより多く症状が出る可能性があるため、毎晩、蕁麻疹が出るという人はとりあえず施術することによって、より強い反応が出るかもしれません。蕁麻疹体質でこのところ蕁麻疹が夜になると毎晩出てしまうという方は、施術により、より強く誘発されてしまいますので、治療をおすすめして、医師の許可を頂いてというふうにお話されたほうが良いように思います。

化粧品

「化粧品のかぶれがある」とチェックをする人で、化粧品の中で香料、防腐剤などかぶれる原因が分かっている場合は、きちんと情報を得て施術しなければいけません。化粧品かぶれの方は、これをして欲しい、あれをして欲しいというのを具体的に施術の内容を相談をしながら決めていくことが大事かもしれません。何にかぶれているのか、今は問題がないのか、例えば、こういう香料が入っているものを使います。防腐剤が入っているものを使います。ということをあらかじめ言って、それが大丈夫かどうかというのを確認をしたという記録を残していく方がいいでしょう。

金属

金属が汗に触れ金属成分が溶け出し金属イオンになります。この金属イオンが皮膚に浸透しアレルギーを起こすことがあります。これは、重症度によるので、金属アレルギーだから顔の施術をしてはいけないということはありません。むしろマッサージをしたり、オイルマッサージをしたりというのは、基本的にはあまり問題はないと思います。機器などで、金属でなでるとか、電流を流すことで、発汗させると反応してしまうかもしれませんので避けたほうがいいでしょう。

また、金属板を体に付けて電流を流すというのは、基本的に金属アレルギーの人にはやってはいけません。

食物

最近化粧品に大豆や小麦など食品が含まれている事があります。食物アレルギーを持っている人にその食物成分を塗ると反応が出ることがあります。過去にエステティックでは、豆乳の入った化粧品で大豆アレルギーになったという症例がありました。ですから、小麦のかぶれとか大豆のかぶれとか、きちんと確認をして、自分がこれから施術をしようと思う化粧品と関係がないかどうかということ、チェックするようにしてください。食べる物が化粧品の中に入っていることはよくあるので、ナッツのアレルギーなどは、マッサージ用オイルなども注意が必要です。注意すべきは、ナッツ、大豆、小麦、蜂蜜(ローヤルゼリー)、うこんなどになります。接触蕁麻疹では、ショックを起こすこともありますので注意が必要です。

薬物

エステティックでは、薬を使うことはありませんのでさほど重要視しなくて大丈夫です。ただし、湿布でかぶれる人などは、メントールなどが原因のことが多いですので注意が必要です。

ラテックス

ラテックスアレルギーは、天然ゴムの入った手袋などで時に重い症状が出ます。最近の使い捨て手袋ではラテックスが入っていないものが増えてきています。ラテックスアレルギーのお客様を施術する場合、施術に使用する器具類に天然ゴムが含まれていないかどうか確認してから使いましょう。

Q3 慢性疾患

慢性疾患は、重症度によって注意点が変わってきます。日常生活で気をつけいる点など詳しく聞き取り施術を組み立てていきましょう。主治医からの注意事項があるときは、厳守するようにします。

糖尿病

糖尿病と申告があった時は、状態をよく聞き取り、脚のむくみ、傷、感染のチェック(見た目がきれいならたいがい大丈夫です。)をしましょう。そのうえでお客様とよく相談して施術の組み立てを行いましょう。また、足先などに末梢神経障害がおこり、感覚がマヒしている人もいますので注意が必要です。

高血圧 心臓病

急激な温度変化があるとリスクが高まります。サウナなど温度上昇がある施術には注意が必要です。また、血流改善の薬を服用していると、マッサージの力で皮下出血がおこりやすくなります。

悪性腫瘍

悪性腫瘍でエステティックに行ってもいいよと主治医から許可をされている人は、何をどうしていただきたいかということをきちんと施術前に問診をして、足だけのマッサージなり、顔のマッサージなり、リラクゼーションを心がけましょう。特に抗がん剤治療を受けている人は主治医のOKをもらいましょう。

リンパ浮腫

浮腫の病態によりますが、傷がなければ基本的に、気持ちがいい範囲で施術はOKでしょう。傷をつけてしまうのは厳禁です。

膠原病

膠原病も飲んでるお薬の種類あるいは、どのぐらい期間長く飲んだかということで皮膚の委縮状態、出血の状態というのが、千差万別になってきます。これも同じように長くステロイド・免疫抑制剤両方を飲んでいる可能性があるので、外圧のかけ方について相談して下さい。、薄い皮膚でペロンとむけることや出血することがあるかもしれません。年齢よりもより弱い皮膚ということがありますので、施術の力を加減してください。

精神疾患

いろいろ話をして楽になることがあるので、気持ちの良い施術をこころがければいいでしょう。こちらから施術提案をしない方がいい人たちです。何をされに来たか、何をしたいのかということをしっかりとお話をしてあげるのがいいと思います。逆らわない、決めたコースを勧めないがキーワードです。

更年期障害

心身の不安定な状況で、顔はほてり、手足は冷えて困る人が多いようです。症状に合わせて、気持ちのいいことをやってあげるのがいいと思います。顔のクーリングがいい人もいるし、手足のマッサージでホットにしてあげるのがいい人もいます。きちんと話を聞いて施術を組み立てましょう。